

都市再生整備計画

あやちく き
綾地区(4期)

みやざき あやちよう
宮崎県 綾町

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	☐
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☒

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	宮崎県	市町村名	綾町	地区名	綾地区(4期)	面積	131	ha
計画期間	令和7年度～令和11年度	交付期間	令和7年度～令和11年度					

目標
大目標:半世紀以上にわたり展開してきた「自然共生型まちづくり」(*)を、未来志向の観点から、その意義を改めて確認したうえで、戦略性をもって着実かつ発展的に進展させる。 目標1:「自然共生型まちづくり」を、本町の核となる中心市街地に特化して推進する。具体的には、当該地の既存ストックを活用して自然を体感できる(快適性向上に資する)空間整備をしていく。＜グリーンコミュニティ(**)の形成＞ 目標2:上記の過程において、①多様な主体が、日常の暮らしの一部として「自然共生型まちづくり」に関わっていく土壌を醸成し、②当該まちづくり推進のエンジンとなるキーマンや団体の発掘・支援を行うとともに、それらを包摂する綾独自の「まちづくりプラットフォーム」の構築とその効果的運用を目指す。 *自然共生型まちづくり:自然(土、緑、水、農業、多様な動・植物)との繋がりを体感できる暮らしや、その恵みを生かした産業や活動を育み、体現できる地域づくり **グリーンコミュニティ:「自然共生型まちづくり」の価値の共有及び協働的推進の結果として形成される、町民同士のつながりと緑あふれる空間

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 本町は、半世紀以上もの間、「照葉樹林都市」を標榜し、「自然共生型まちづくり」を推進してきた経緯があり、近年では、ユネスコエコパーク(H24:登録、同年:CIB 国際美しいまちづくりコンクールで国内初の5つ星受賞)、有機農業(S63:自然生態系農業の推進に関する条例制定、H13:有機JAS登録認定機関の指定、R3:有機農業面積割合全国10位)、工芸(綾工芸祭りはR5で42回を数える)等の分野で一定の実績を積み上げてきたところである。 現在進捗中の第八次綾町総合計画(R3-R7)でも、これまでの本町の自然共生型まちづくりの実績を踏まえ、「自然と共に生き 人と共に生きるまち」を目標に掲げている。しかしながら、近年、「自然共生型まちづくり」への向き合い方が、より探索的になっており、発展的展開には至っていない。その背景には、本町が他地域同様、人口減少(H12 7,596人、R22予測 6,182人)、高齢化(H12 24.0%、R22予測 36.4%)、空洞化(空き地・空き家の増加)、基幹産業の停滞(農業就業者数の減少:H12 937人→H27 612人)、さらには気候変動に伴う災害の激甚化・頻発化などの経済・社会面での課題を抱えていることに加え、従来から進めてきた「自然共生型まちづくり」に対する町内の機運が停滞傾向にあること(「自然の豊かさや保全」への満足度の低下:H26 7.28→H31 5.69、「市街地整備の充実度」に対する満足度低位1.50(H31))などが挙げられる。こうした諸課題が相まって、自然共生型まちづくりの歩みが減速している要因ともなっている。 「これらの課題解決」と「自然共生型まちづくり」を、どのようにバランスさせていくのか。具体的には、「自然共生型まちづくり」を推進していくことで、これらの諸課題解決が可能となるビジョンをどのように描けていけるのか。この点は、現段階の綾町のまちづくり上の最大のテーマとなっており、従来からの「自然共生型まちづくり」の「意義」や「あり方」を未来志向の観点から再検討すべきタイミングを迎えている。
課題 上記のまちづくりの現況を踏まえると、本町のまちづくり上の課題は以下の3点に集約される。 1)これまで、本町では、「自然共生型まちづくり」が、照葉樹林の維持・保全や自然生態系農業を軸に展開されてきた経緯があり、町の顔となる中心市街地に、自然を体感でき人々が歩いて回遊する快適な空間や魅力ある施設として目に見える形で効果的に新たな「自然共生型まちづくり」が推進されるには至っていない。 2)これまでの「自然共生型まちづくり」が、「行政主導」で、「事業単体毎」に、「つくることを優先」して、「従来通りの手法(流行の手法や他市町村で導入された手法)」に基づき展開されてきたところがあり、戦略性のある綾独自の攻めのまちづくり(「事業間の連動性」、「多様な主体の巻き込み」、「つかうからつくるのスタンス」、「社会実験による挑戦的アプローチ」等)への転換が図られていない。 3)「自然共生型まちづくり」の意義が、半世紀たった今も見直されず、当時の時代背景、社会的潮流の脈絡において語られるのみで、未来志向型での新たな解釈(意義づけ)が加えられてこなかったために、町全体における、「自然共生型まちづくり」への理解や共有が希薄になっている。当該まちづくりを力強く推進していくためにも、その根本となる土壌(町民の理解・支援)の醸成は不可欠である。
将来ビジョン(中長期) 「豊かな自然と伝統を活かしみんなの英知と協力で未来にひらく町をめざすために」と掲げられた綾町憲章においても「自然生態系を活かし育てる街にしよう」と明記されており、その理念のもとで総合長期計画等も定められている。第八次綾町長期総合計画(R3.4)は、「自然と共に生き 人とともに生きるまち 綾」を目指すべきまちの姿とし、「安全で安心してくらせるまちづくり～生活基盤分野」では、「災害につよいまちづくり」(p.53)、「周遊性の向上」(p.57)、「市街地の整備」(p.60)、「力強く活力に満ちた住み続けられるまちづくり～産業振興分野」では、「商業環境の整備」(p.86)、「消費者利便性の確保」(p.86)、「観光・レクリエーションの振興」(p.90)、「快適で美しいまちづくり～自然・生活環境保全分野」では、「公園緑地の整備」(p.158)、「ユネスコエコパークにふさわしい景観整備の促進」(p.164)等、本計画を支える計画が記されている。 綾町都市計画マスタープラン(H30.6)の「市街地整備の基本方針」において、『綾の顔づくりに資する基盤整備(ユネスコ エコパークのまちにふさわしい景観形成等)』(p78)や『町民・観光客の健康につながる市街地づくり(徒歩や自転車で散策する都市基盤づくり等)』(p80)が明記されている。また、都市計画マスタープランの実現に向け、『綾町立地適正化計画』(R5)では、持続可能な都市経営を可能とする居住機能や都市機能の適正な誘導、公共交通等のさまざまな施策と連携した「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを目指すことが記されている。

★一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォーカブル推進事業の計画 ※一体型滞在快適性等向上事業の場合もしくはまちなかウォーカブル推進事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
滞在快適性等向上区域の考え方 綾町役場・手づくりほんものセンターを核として、これと道路と本事業を通じて整備された施設(スポット)を繋ぐ面的な範囲を滞在快適性等向上区域とする

目標を定量化する指標								
指 標		単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
町民の「自然共生型まちづくり」(グリーンコミュニティ)に対する関心度		%	「自然共生型まちづくり」及びその結果としてのグリーンコミュニティ形成に対するアンケートから得られた町民の「関心度」	「自然共生型まちづくり」の推進が、町民の関心度の向上につながる	58.8	R6年度	65.0	R11年度
「自然共生型まちづくり」に関わる活動人数		人/年	「自然共生型まちづくり」に資する地域活動(従来、新規)に対するアンケートから得られる活動人数	「自然共生型まちづくり」の推進が、地域で活動する人の増加につながる	1,700	R6年度	1,950	R11年度
まちなか歩行者数		人/年	中心市街地のメインストリートにおける歩行者数	快適性向上や魅力ある施設の空間整備により、中心市街地における歩行者数の増加を目指す。	45,000	R6年度	50,000	R11年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1: 点と線と面の有機的な繋がりを体感できる中心市街地の整備(グリーンコミュニティの形成) 1) 中心市街地(空間)を、①スポット(点)の整備(公民有地や空き家を活用した、自然(土・緑・水・農/多様な動・植物)との繋がりを体感できる場所づくり)、②コリドー(線)の整備(水路、小径、ピオトープ、街路樹等により、自然(土・緑・水・農/多様な動・植物)との繋がりが恵みを実感できる回廊づくり)、③ホワイエ(面)の整備(本町中心市街地の象徴的存在である「綾手づくりほんものセンター」及びその周辺の機能拡充による自然(土・緑・水・農/多様な動・植物)を媒介とする団らん・憩い/防災・減災の拠点づくり)から区分し、それらを有機的に機能させながら、グリーンコミュニティの段階的創出(整備及び維持管理)を図っていく。 2) 上記を通じて、当該エリアを、グリーンインフラ(自然環境が持つ多様な機能を活用した都市基盤整備)実験ゾーンと位置づけ、自然環境が持つ多様な機能を、まちづくりを通じて体感していく拠点としていく。	●グリーンコミュニティ(まちにわ)整備事業 【基幹事業】(地域生活基盤施設 緑地・広場)てるはスポット事業(公民有地の緑化等) 【基幹事業】(高質空間形成施設 緑化施設等)てるはコリドー事業(緑のネットワーク化) 【基幹事業】(高質空間形成施設 緑化施設等)てるはコリドー事業(まちなか無電柱化整備) 【基幹事業】(滞在環境整備事業 まちなかハブ)てるはスポット事業(空き家のコミュニティ施設化) 【基幹事業】(滞在環境整備事業 まちなかハブ)てるはホワイエ事業(緑の団集、溜まり場)
整備方針2: 戦略性をもった攻めのまちづくりによる中心市街地の整備(グリーンコミュニティの形成)とマネジメント 中心市街地の整備及びマネジメントにおいては、誰もが自然(土・緑・水・農/多様な動・植物)との繋がりがその恵みを体感できる地域環境の創出、すなわちグリーンコミュニティの形成を前提とし、以下を原則として進めていく。 1) 町民の暮らしや活動欲求を起点とする空間整備を行うものとし、その維持管理については、「つかう人」に一定の役割を担ってもらう(多様な主体を巻き込む公民協働/つくるからつかうへ)。 2(綾の風土に見合ったまちづくり手法(ハード・ソフト)を実験的に導入し、適宜改善・修正を図りながら、最適解を追求していく(社会実験による挑戦的アプローチ)。	※上記の整備事業はいずれも、多様な主体を巻き込みながら、公民協働で、社会実験による挑戦的アプローチにより進める 【提案事業】(事業活用調査)グリーンコミュニティ形成に資する地域課題解決調査(新たな地域公共交通調査) 【提案事業】(まちづくり活動支援事業)グリーンコミュニティ維持管理体制検討事業(維持管理体制検討)
整備方針3: 自然共生型まちづくりを持続的に展開していくための土壌形成 1) 町全体で、自然共生型まちづくりを展開していく機運を醸成し、自然共生型まちづくりに未来志向で牽引する「綾・グリーンコミュニティデザイナー(仮)」(個人・団体)の発掘や支援を行い、当該の個人や団体に、自然共生型まちづくり推進に向けた「役割」や「場」を用意するとともに、そうした人々が動きやすくなる制度や環境を柔軟に整えていく。	【提案事業】(事業活用調査)グリーンコミュニティ効果分析事業(事業効果分析調査) 【提案事業】(地域創造支援事業)グリーンコミュニティ活動支援事業(グリーンコミュニティ支援事業) 【提案事業】(地域創造支援事業)グリーンコミュニティ活動支援事業(プレーパーク遊具整備事業)

★その他

○事業終了後の予測される効果

・本事業により、町の顔である中心市街地において自然共生型まちづくりの過程や成果を、町民や町外からの訪問者に対して目に見える形で提示していくことができる。それによって、自然共生型まちづくりへの町内外の関心や共通認識を高めることができ、関連施策・事業の展開が、よりスムーズになることが見込まれる。

・自然共生型まちづくりを戦略性(多様な主体を主体を巻き込む公民連携、つかうからつくるの徹底、社会実験による挑戦的アプローチ)をもって推進することで、町内に戦略的な攻めのまちづくりの姿勢やあり方が、定着していくステップになることが見込まれる。

・「綾・グリーンコミュニティデザイナー(仮)」の発掘・支援等を通じて、自然共生型まちづくりに関わる主体を多様に育むことが見込まれる。

★【重点的に取り組むテーマ】

グリーンインフラ

様式(1)-④-4

(金額の単位は百万円)

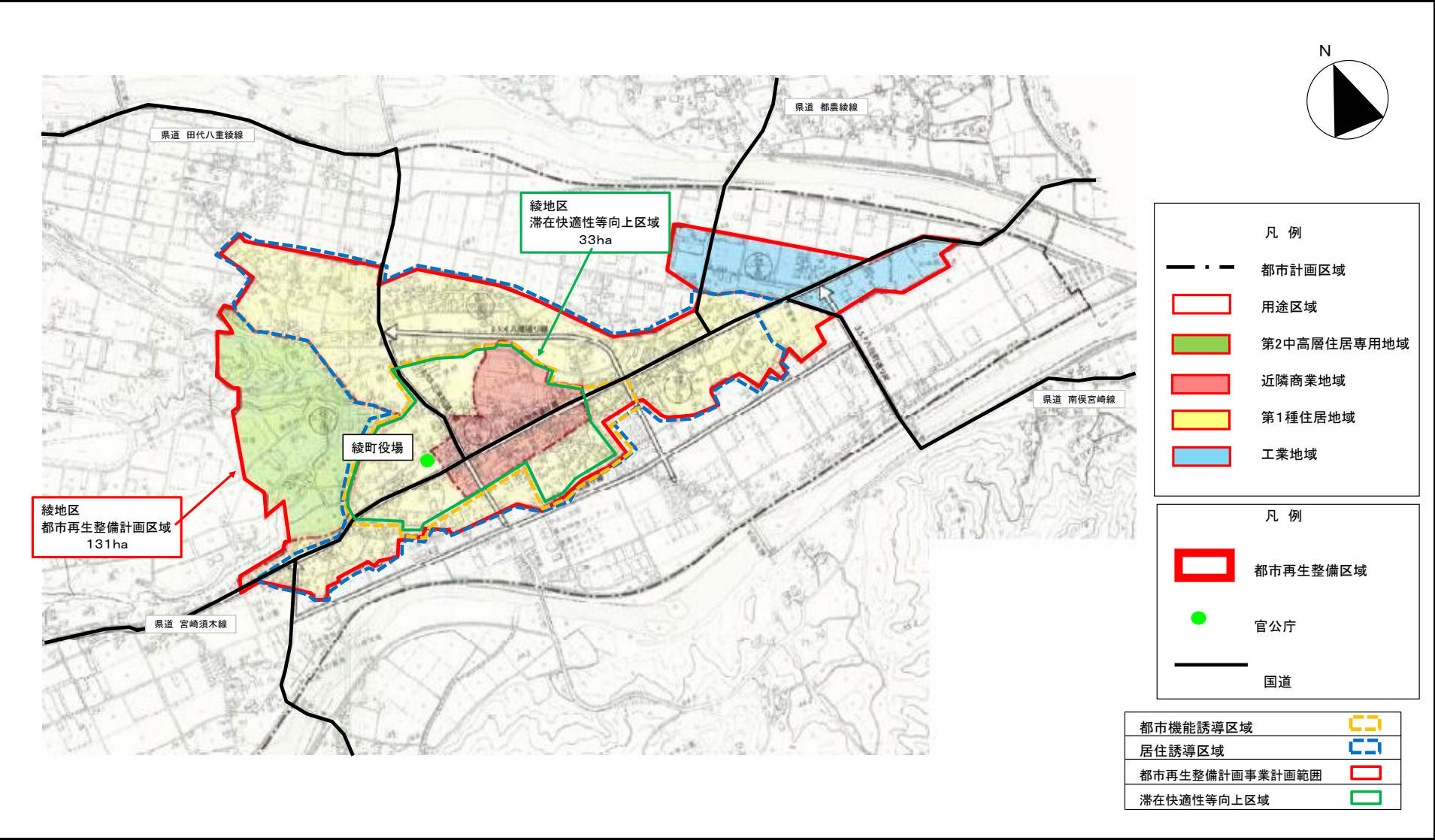
...A

...

〔参考〕都市構造再編集中支援関連事業

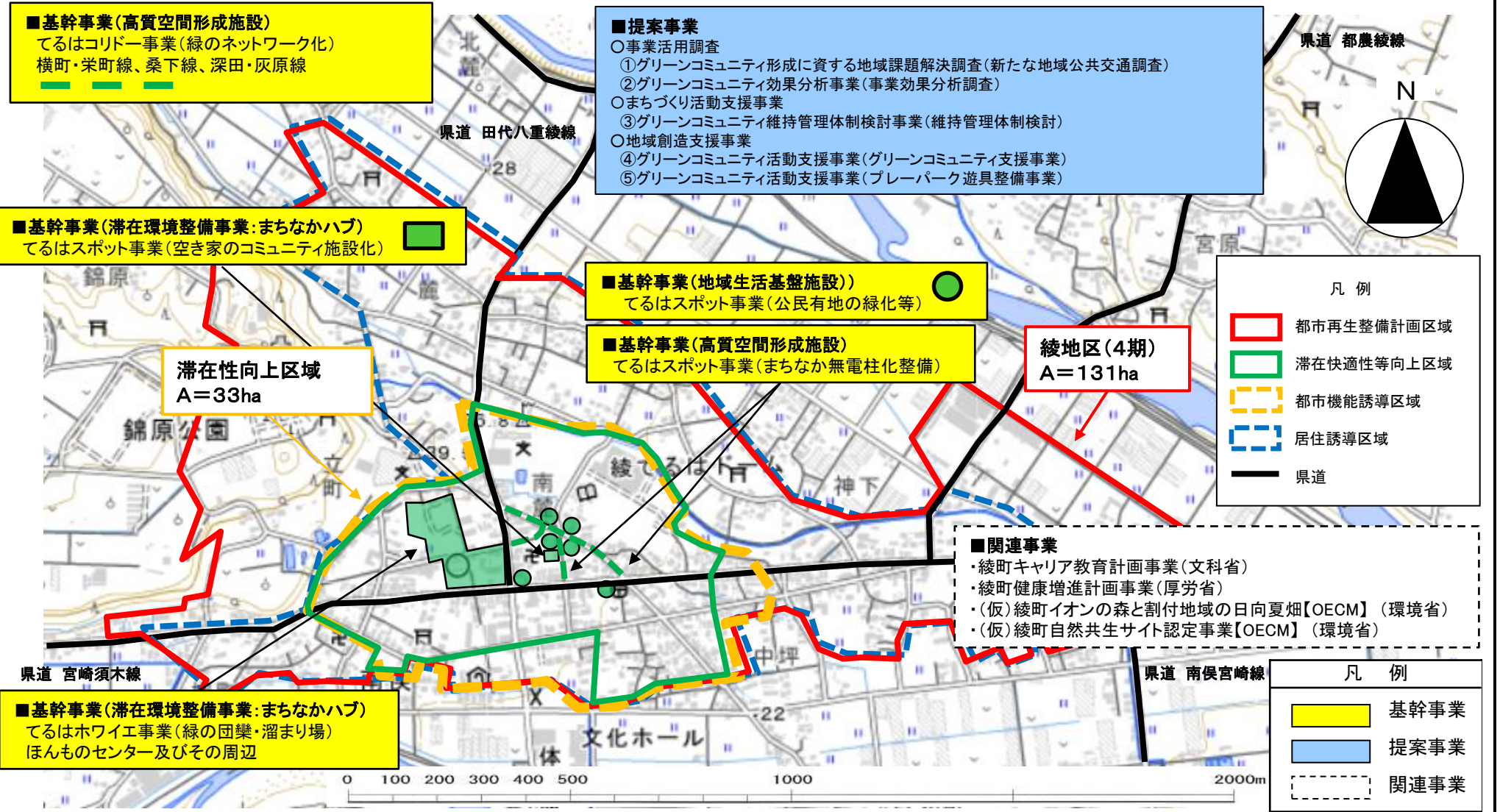
(参考) 関連事業

綾地区(宮崎県綾町)	面積	131(33) ha	区域	綾町大字南俣2680-2～綾町大字入野4746-4の一部
------------	----	------------	----	------------------------------



綾地区(宮崎県綾町) 整備方針概要図(まちなかウォークブル推進事業)

目標	半世紀以上にわたり展開してきた「自然共生型まちづくり」(*)を、未来志向の観点から、その意義を改めて確認したうえで、戦略性をもって着実かつ発展的に進展させる。	代表的な指標	町民の「自然共生型まちづくり」(グリーンコミュニティ)に対する関心度 (%)	58.8	(令和6年度) →	65.0	(令和11年度)
	*自然共生型まちづくり: 自然(土、緑、水、農業、多様な動・植物)との繋がりを実感できる暮らしや、その恵みを生かした産業や活動を育み、体现できる地域づくり		「自然共生型まちづくり」に関わる活動人数 (人/年)	1,700	(令和6年度) →	1,950	(令和11年度)
	**グリーンコミュニティ: 「自然共生型まちづくり」の価値の共有及び協働的推進の結果として形成される、町民同士のつながりと緑あふれる空間		まちなか歩行者数 (人/年)	45,000	(令和6年度) →	50,000	(令和11年度)



事前評価チェックシート

計画の名称： 綾地区（4期）都市再生整備計画

事前評価		チェック欄
Ⅰ．目標の妥当性 都市再生基本方針との適合等 1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。		○
Ⅰ．目標の妥当性 都市再生基本方針との適合等 2) 上位計画等と整合性が確保されている。		○
Ⅰ．目標の妥当性 地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。		○
Ⅰ．目標の妥当性 地域の課題への対応 2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 事業の効果 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。		○
Ⅲ．計画の実現可能性 地元の熱意 1) まちづくりに向けた機運がある。		○
Ⅲ．計画の実現可能性 地元の熱意 2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。		○
Ⅲ．計画の実現可能性 地元の熱意 3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。		○
Ⅲ．計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。		○

[illegible]